

プレスリリース



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

平成30年度 新収蔵品展

2019年2月2日(土)~3月3日(日)



三枝雲岱《瀑鳴忘暑図》
1891(明治24)年頃



深沢幸雄《鳥達の会話》
2015(平成27)年



わたなべゆう《土の生活-4》
1995(平成7)年



のむら清六《曼珠沙華》
制作年不詳

山梨県立美術館では、本年度も多くの皆様から作品をご寄贈いただきました。
本展の観覧料は無料です。多様な作品の数々をお楽しみください。

【展覧会紹介】

平成30年度に新たに美術館へ収蔵された作品を展示します。

日本画からは野口小蘋、三枝雲岱、河内雅溪、近藤浩一路、のむら清六、三枝茂雄など、洋画は埴原久和代、わたなべゆう、菊島明など、版画からは深沢幸雄、工芸からは雨宮弥太郎、と山梨にゆかりある作家の作品を中心に約45点を紹介します。

中でも三枝雲岱（1811～1901）は、江戸末期から没する明治中期にいたる長い画業を概観できる山水画と花鳥走獣画の8点が寄贈されました。壮年期の作品と思われる《虎図》、美しい彩色の施された《玉堂春富貴図》、理想とする山水の到達点を示す《瀑鳴忘暑図》など、雲岱画の魅力が随所に見られる秀作揃いです。その他にも、近藤浩一路の比較的初期作品と思われる《早春》、のむら清六《曼珠沙華》や三枝茂雄《白梅花》などは、画家の強烈な個性が発揮されている力作です。

洋画では、山梨で創作活動を精力的におこなっているわたなべゆう《土の生活-4》、同じく菊島明《雨の海》など、工芸では、現代における雨端硯の第一人者、雨宮弥太郎の《抱月硯》が新たに収蔵されました。

さらには、昨年度開催された特別展「銅版画の詩人 追悼 深沢幸雄展」の開催を機にご遺族から寄贈された銅版画の中から、展覧会では出品されなかった作品も紹介します。

観覧は無料です。是非この機会に、当館に新たに収蔵された多彩な作品の数々をお楽しみください。

【開催概要】

名 称 : 平成30年度 新収蔵品展
会 場 : 山梨県立美術館 南館2F特別展示室
会 期 : 2019年2月2日(土)～3月3日(日)
休 館 日 : 2月4日(月)、12(火)、18(月)、25日(月)
開 館 時 間 : 午前9:00～午後5:00 (入館は午後4:30まで)
主 催 : 山梨県立美術館

【観覧料】

無料

【交通アクセス】

- 中央自動車道甲府昭和インターチェンジより
 - ・料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。
(駐車場：乗用車345台、バス16台、障害者専用6台 いずれも無料)
- JR中央本線甲府駅より
 - ・甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場から御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川団地各行きのバスで約15分、「山梨県立美術館」下車。
 - ・タクシーで約15分(料金1,700円程度)。
- 昇仙峡より
 - ・敷島営業所行バスで「山梨県立美術館」下車。

【お問合せ先】

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-4-27

TEL : 055-228-3322 FAX : 055-228-3324

●取材等の問合せ

山梨県立美術館・文学館 指定管理者 S P S ・桔梗屋グループ
広報担当：輿石(コシイシ)・五味(ゴミ)

●展覧会内容・画像使用に関する問合せ

山梨県立美術館学芸員：平林(ヒラバヤシ)